2024/11/06

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への
静岡市産材（オクシズ材）提供とその後の利用について

１　経緯

■　東京オリンピック・パラリンピックでの木材活用について

「日本の木材活用リレー　～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「大会」という。）をオールジャパンで盛り上げるとともに、環境に配慮した持続可能性を計画に掲げ、選手村の設備・運営においても持続可能な取組みとなることを目指した。

一方、東京2020大会選手村ビレッジプラザ（以下「ビレッジプラザ」という。）では、日本の伝統・文化を感じられるよう「木材を使用」することを開催都市への立候補時から公表してきた。国産材の使用は、林業の再生や森林の適正な整備、地球温暖化の防止等につながり、持続可能な地球環境の保全に資するものであるとして、木材を使用した建築物にするとともに、移転や再構築しやすくすることで後利用を容易にし、持続可能性の実現を目指した。

そこで、組織委員会では、東京都と協同して、オールジャパンで大会を盛り上げ、大会後に各地にレガシーを残すことを目的に、全国木材を活用し、レガシーとして後利用を図る事業スキームを構築し、「日本の木材活用リレー　～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」を実施した。この取組みの推進にあたっては、広く全国から木材を調達するために、ビレッジプラザの建築に必要な木材を提供する地方公共団体を全国から公募した。

また、大会終了後は、各地方公共団体は解体後の提供木材を持ち帰り、大会に使われた木材であることを有効に活用して、大会のレガシーとして公共的な施設、ベンチ・椅子等として後利用を図ることとされた。

オリンピック・パラリンピック関連施設の事業は注目度が高く、広く一般に静岡市の木材が認知される機会であることから、市産材である「オクシズ材」の認知度向上、需要拡大を図る絶好の機会と捉え、木材提供の公募に参加、約５㎥のスギ・ヒノキのオクシズ材を提供（貸出）することになった。

▲ビレッジプラザコンセプト

▲ビレッジプラザ内観イメージ

（参考）森喜朗会長から美濃部副市長（当時）への感謝状贈呈式（平成 29 年 11 月 24 日）

「photo by Tokyo 2020 /Shugo TAKEMI」

■提供木材の使用箇所について

提供した木材（構造材等 5.35 ㎥）は選手村ビレッジプラザ A 棟の柱や梁等に活用された。

選手村ビレッジプラザ A 棟　柱

選手村ビレッジプラザ　A 棟　梁

■提供木材の返還について

令和４年２月、市に返還。現在、市内製材業者の方の協力を得て保管されている。

※保管状況（令和６年６月５日）

２　大会後の木材利用について

■返還後の利用方針について

返還後の木材（以下「レガシー材」という。）の後利用については、組織委員会と静岡市の間の協定書の中で、「商業を目的とした施設で本木材を使用しないこと」と定められおり、オリンピックのレガシーを残しながらオクシズ材のＰＲとともに有効利用を図っていくこととしている。

令和４年度には、一部を市内スポーツ合宿施設や試合会場で使用する選手向けの歓迎看板を作成した。現在は清水ナショナルトレーニングセンター J-STEP（清水区山切）で活用されている。

■葵区役所内授乳スペースでのレガシー材活用について

大会のコンセプトである「全員が自己ベスト」・「多様性と調和」・「未来への継承」と共に、静岡市とオクシズ材が大会の施設整備に協力し、世界中から訪れた多数の選手や関係者を支えたことなど、大会のレガシーを後世に伝えていくには、次世代の子どもたちのために活用することが有効であると考え、多くの市民が訪れる葵区役所内の授乳スペースの木質化に利用することとした。

木質化によって木の温かみが感じられる安心感のある空間になり、また、外側面（外観）へのイラスト等によって視認性を向上し、利用しやすい授乳スペースとすることを目指す。

木質化予定の授乳スペース
（静岡市役所葵区役所１階）

【参考】木質化のイメージ
（木製授乳ボックス：清水駅前銀座商店街）